

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員全員でつくり管理者、職員で共有し実践に努めている。	朝礼時には全員が輪になって手をつなぎ理念を唱和している。理念にすぐわない対応などがあればチームカンファレンスで事例を挙げどのように対応するか話し合い、理念に沿ったケアの統一や意識づけを図っている。研修でも理念の読み合わせとその意味を考え再確認している。また、一人ひとりの入居者のサービスを振り返り理念に沿っているか確認している。理念は名札のウラに印刷されており、職員は自分の言葉で語る事が出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の小・中学校の行事を参観したり地域の文化祭に出展している。併設施設合同の行事(夏祭り等)に地域の方々を招待している。近隣の方々との茶話会も行った。	地域や複合施設の行事、催し物がある時には盛んに交流している。野菜づくりをしている近所のボランティアからの差し入れもある。村主催の文化祭には入居者の手芸、生け花、陶芸等を展示している。陶芸は地区の民生委員から教わっている。この夏には中学生が奉仕活動として草むしり等に毎月訪れていた。その中学生達は学校の音楽祭に入居者を招待し送り迎えも手伝ってくれた。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設との協賛でシンポジウムを開催することで認知症高齢者を地域で支える大切さを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、状況報告、及び活動報告をし意見を伺いサービスの向上に活かすよう努めている。また、委員のご協力で地域交流の機会が少しずつ増えてきている。	利用者代表、家族、地域代表、民生委員、白馬村住民課職員、小谷村住民課職員が出席し、2ヶ月毎に開催している。事業所の取り組み状況等を報告し意見を伺っている。行事に関しては参加者から協力的な申し出や意見を頂いている。委員には地域とのつながりの橋渡しや畑の手伝いなどに積極的に関わっていただいております。委員からの案で陶芸教室も実施されるなど一緒になってホームを支えていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター等と必要に応じ連絡を取り情報を共有しながら協力関係を築いている。	役場からは運営推進委員として職員が参加しホームとの連携を深めている。地域包括支援センターとは地域の高齢者の情報を頂いたり入居者の入退きの報告、生活保護の相談など様々なことで連携している。介護相談員が毎月2名訪れ入居者と一緒に過ごし話を聞いたり相談にも乗っている。また事業所側からも介護相談員に対し相談員の目線で職員の接遇など厳しく見て指摘して欲しいとお願いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の「身体拘束審査委員会」に所属し身体拘束ゼロに努めている。現在のところ該当者はいない。また、玄関の施錠は夜間のみである。	併設施設には18の委員会があり事業所でも関係のある14の委員会に代表が出席している。そのうちの一つ「身体拘束審査委員会」に代表職員が出席している。会議の内容は職員に報告されている。職員は拘束の行為や弊害を良く理解しており拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが意識を持って虐待防止に努めている。チームカンファレンスにおいて、日々行っているケアが不適切でないか話し合い確認をしている。		

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、勉強会に参加し制度に関する理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類に添って分かりやすい説明に心がけ、またご利用者、ご家族の希望や意向を伺うと共に疑問に対してもしっかり受け止め丁寧にお答えし、理解同意を得よう努めている。解約時においても十分な説明をし一緒に検討した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問、CS(顧客満足)委員会によるアンケートの実施や、意見箱を設置し意見を表せる機会を設けている。意見や苦情は速やかに対応し改善の結果を公表している。	家族会が積極的に活動し意見や発言しやすい土壌ができてきている。出された意見は職員で話し合い運営に反映させている。毎月開かれる家族会には職員も参加し思いや意見を聞いて絆を深めている。家族会を毎月開催することで「今月は参加できないが来月は来ます」と家族からも気軽に声を掛けていただいている。満足度アンケート集計結果は事業所内に掲示し、アンケートから得られた課題については検討し改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回行っているチームカンファレンスにおいて意見、提案を出せるようにしている。出された意見は、主任から管理者へ報告し検討を依頼している。また、年一回の上長との個人面談を実施し直接意見や要望を伝える機会となっている。	毎月の会議や日常の中でも意見や要望は出されている。職員が発言し易く、お互いに信頼し合う関係の中で会議が進められている。職員は個々に目標を掲げ向上心を持って日々、励んでいる。人事考課制度が導入されており年一回の上司との面接では目標に関することや自分の考えを直接伝えている。職員の意見や提案は運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、年度末に職員全員が自己評価を行うことで自分の努力や実績を振り返ると共に次年への自己目標を掲げている。上長評価と合わせて総合的な評価を行い、その結果が職員の向上心に繋がるよう個人面接も実施し直接意見交換ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に配慮し外部研修への参加を奨励している。法人内でも研修会の機会が多く設けられており働きながら技術や知識を身につけることを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域全体で高齢者を支えるという視点から他の施設との連携を重視し、ネットワーク作りも積極的に行っている。職員もグループホーム連絡協議会主催の研修会に参加するようにしている。		

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に、その方の暮らしの情報を得たり事前にご本人と面談する中で、求めていることや不安に感じていることを理解するよう心がけ安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や事前面談の機会を設けたり、これまでの経緯やご家族の気持ちをしっかり傾聴するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、その時必要であるニーズを評価し、併施設と協力し合い柔軟なサービス対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者と共に暮らす関わりの中でその方の思いを理解し、共感しながら共に支えあえる関係性を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろのご本人の様子をなるべくこまめに伝えるよう努め、思いを共有しその方を一緒に支える関係性を築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの関係の方に面会や行事への参加を呼びかけたり、行きつけの床屋に出かけたりするよう支援に努めている。	生活歴から馴染みの方や友達を知りその関係が続けられる支援を行っている。ホームは老健、有床診療所、デイケアの複合施設内にあるため、施設に同級生がいたり、近所の人がいたりと入居者との顔なじみが多く、時々顔を合わせている。遠方の身内の所からこのホームに移った際に窓から見える白馬連峰を眺めて「あ～山が見える。」と懐かしそうにつぶやいた入居者もいるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、必要に応じて職員が調整役となり支援している。利用者同士の関わりも大事にし、適度な距離感を持って見守るようにしている。		

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も経過を把握し行事への参加を呼びかけたり、面会に伺う等して関係の継続を図るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の言葉や表情からその思いをくみ取るよう心がけている。意思疎通が困難な方であっても本人本位であるよう努めている。	自分の思いや意向を伝えることが出来る入居者が殆どである。入居者の気持ちを職員が良く理解しており本人の意向に沿った支援を行っている。家族も本人の意向を大切に考えている。意思表示が曖昧な入居者に関しては事業所は家族とも相談しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や馴染みの生活環境など暮らしに必要な事柄をご家族等から聞き取り、情報収集に努めている。また、その情報を個人年表におこしながら、その方の暮らしの理解を深めていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースに合わせて過ごしていただけるよう心がけている。できないことより、今できることに視点を合わせその方の状態に合った支援を行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにてモニタリングやアセスメントを必ず行い、ご本人主体の暮らしに即した介護計画を作成するよう努めている。また、カンファレンスにはご家族、ご本人にもできるだけ参加していただき意向を伺っている。	本人や家族の意向を聞き、身体状況を基に担当職員と計画作成担当者が暫定的に作成し、ケアカンファレンスでそれを全員で検討し正式な介護計画を作成している。家族にも説明しサインを頂いている。見直しは3ヶ月毎に行うが変化のある時はその時点で見直し、状態に合わせたものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や暮らしの様子を個別に毎日記録に残しファイルしている。また、気づきや状態の変化は申し送り時に伝達したり、申し送りノートを活用し情報を共有しながらケアや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の複合施設それぞれの特性を活かしながら連携し、必要に応じた支援を柔軟に行っている。		

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、地域の方との交流、ボランティアの受け入れ等も楽しみの一つとなっているが、個々に合わせた地域資源を把握し、暮らしがより豊かになるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望する医療機関での受診を支援している。また付き添う場合には普段のその方の様子、変化等を医師に伝え、受診結果はご家族へ連絡している。歯科医師等は往診の対応も行っている。	家族や本人の希望に沿って受診している。複合施設内に入院可能な診療所及び老人保健施設があり、往診や24時間の相談も可能である。歯科医師の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し随時相談、アドバイスを受けている。また、併設施設の看護師とも連携を図りご利用者の体調の変化等があった場合、速やかに適切な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者である医師が入院先の医療機関と連携を図り安心して治療できるよう支援している。また、医療機関と回復状況等連絡をこまめにし早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護計画書を作成する毎に、ご本人ご家族の意向を確認している。また、ご本人の状態の変化に応じて対応の説明をし意向の確認をしながら支援を行うよう努めている。	「利用者の重度化及び看取り介護に係る指針」が作成されており契約時に本人、家族に説明されている。今までに2名の方の看取り支援が行われた。看取りについて「真正面に向き合おう」と職員が前向きな気持ちを出して話し合ったことで看取りの課程でステップアップできた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は全職員が救急法の研修会に参加し体得するよう努めている。緊急時のマニュアルを作成し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同避難訓練を年二回実施している。また、ホームにおいても避難方法や対応について職員に周知を図っている。自治体、地域消防団、地域住民、隣接施設と災害時において相互協力体制の協定を結んでる。	非常災害時に備え各居室に頭巾と持ち出し袋が用意されており、中には防寒シート、電池、ロープ、水筒、連絡先を記入した用紙が入っている。法人施設で年2回消防署、地域の方の協力で昼夜想定訓練を一緒に行っている。またホーム独自で緊急の際の避難路の確認や地域の協力者への車椅子の講習を行い緊急時に備えている。	

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを大切にしながら介助し、ご本人の誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。	職員は人権の尊重とプライバシーの確保の重要性を理解している。入職時にオリエンテーションで個人情報の取り扱いや人格尊重などを学んでいる。また、誓約書も取り交わしている。年長者には笑顔で敬意を持って接し一人ひとりのプライバシーに配慮しながら支援を行っている。法人で行っている研修会が職員の資質向上に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせた適切な声かけができるよう配慮に努めている。また、言葉で表現出来ない方には表情等から読み取るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるがその方のペースに合わせて過ごしていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや意向を伺い必要時にはお手伝いさせていただいている。自己決定の難しい方でもその方らしさを大事にした支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を引き出せるように配慮しながら準備や片付けを職員と一緒にやっている。好みのメニューを相談したり季節感を大事にしながら楽しく食事ができるよう配慮している。	職員は一人ひとりの出来ることを理解し、出来る範囲で無理強いをせずに入居者と一緒に食事の準備や片付けを行っている。入居者も楽しみながら役割を積極的に行っている。食事時間はゆっくりと会話を交わしながら楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回チェックし、記録することで把握に努めている。その方の身体状況や嗜好に合わせ、摂取量、食事形態の配慮も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけや見守りを行い、ご自分で出来ない方には、ブラッシング介助やガーゼを利用し清潔保持に努めている。また、義歯の衛生管理も行っている。		

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄リズム、サインを理解しトイレでの排泄が継続できるよう支援している。パッド使用の検討はチーム全体で行いご本人に合った物を使用するよう努めている。	居室にトイレ・洗面台があり、排泄時には必ず自室に戻っている。職員は一人ひとりの排泄リズムを把握しており必要に応じて声がけを行っている。排便時にはその方に合わせ職員二人介助で行うこともある。夜間帯は安眠にも配慮した支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、食事メニューや水分摂取量に配慮したり、運動を行うことで自然排便を促すよう努めている。必要な場合には医師と相談しながら服薬でのコントロールを行う場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日課の流れの中で入浴時間はおよそ一定しているが、その方の気持ちを大事にし無理強いはいしないよう心がけている。入浴時間等希望があればできるだけ応じている。	温泉が引かれ本人の希望に沿って入浴している。週3回位の方が多い。入浴時間は大体決まっている。柚子湯、菖蒲湯など季節に合わせて楽しんでいる。重度の方には職員2名で見守り、介助と安全面には充分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムや身体状況に合わせて安心して休息や睡眠が摂れるよう支援している。また、日中の活動にも配慮しながら夜間、良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作り職員全員が内容を把握できるよう工夫している。また、薬の変更があった場合は申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。内服の確認も必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりの潜在能力が十分に発揮できるよう支援している。趣味や得意技を発揮し合いそれが生活の張り合いや喜びに繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添うことは困難なことが多いが、できるだけ皆で相談して外出の機会を多く持つようになっている。また、外出先で地域に繋がるきっかけになるよう努めている。	近くの足湯に出掛けたり、担当職員別に外出の機会を持っている。お花見や紅葉狩りなどの外出には併設施設の車で出掛けている。また、家族会でもご家族と一緒に外出や外食を楽しまれることもある。個別に近くの床屋や買い物にも出掛けている。複合施設内で行っている趣味のクラブに行ったり、散歩程度の外出は日常的に行われている。	

かたくりの郷・らいちょうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理しているが、ご本人の希望のある時には買い物等に付き添うなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時には電話、手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾ったりすることで共用の場を明るく居心地のよい空間作りをしている。温度、明るさ等にも配慮をしている。	玄関は広く左右にユニットがある。共有空間は天井が高く木を使った山荘の雰囲気を感じる。温泉のお風呂は二人がゆっくり入れるほどに広い。昼間は食堂兼居間で過ごすことが多い。皆で作られた作品や「絆」の文字の装飾が飾られたり、花も生けられ、家庭的で落ちついた共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で集まるテーブル席だけでなく、こたつやソファを置きご自分の気に入った場所で過ごしていただけるよう配慮している。また、二つのユニットが自由に行き来できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の生活の中で馴染みの物や、写真などをお持ちいただくようご家族に案内させていただいている。その方の馴染みや好みを大切に過ごしやすいを大事にしている。	居室は広く、持ち込んだ家具やテレビが置かれ、お孫さんの写真などが飾られている。洗面台やトイレも完備され、収納場所もあることからゆったりと感じる。居室から眺めると道を隔てて森があり、山や緑に囲まれ落ちつける居心地の良い環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて、例えば居室やトイレに目印をつけたり、さりげない声がけをしてできるだけ自立した生活が送れるよう努めている。		